

令和2年11月

第6回大野市小中学校再編計画検討委員会  
会議録

日 時：令和2年11月24日（火）午後7時00分～午後8時48分

場 所：結とぴあ 3階 305・306号室

## 第6回大野市小中学校再編計画検討委員会

と き 令和2年11月24日(火)

午後7時より

ところ 結とぴあ305、306号室

1 開会

2 開会あいさつ

3 議事

(1) 小中学校の再編について

(2) その他

4 その他

5 閉会あいさつ

< 出席者 >

	委員長	松	木	健	一
	副委員長	遠	藤	洋	子
	委員	中	村	昌	嗣
	委員	松	田	寿	子
	委員	朝	日	智	幸
	委員	金	井	和	信
	委員	山	川	龍	一
	委員	常	見	悦	郎
	委員	宮	澤	則	博
	委員	細	道	常	貴
	委員	丸	山	力	哉
	委員	上	田	智	亮
	委員	山	本	恭	子
	委員	伊	藤	恵利	奈
	委員	斉	藤	雄	次
事務局(説明者)	事務局長	清	水	啓	司
	教育総務課長	横	田	晃	弘
	学校教育審議監	千	田		佐
	教育総務課課長補佐	松	下	裕	子
	教育総務課課長補佐	小	林	勝	信
(書記)	教育総務課主事	堀		利	考

< 傍聴者 >

29人

## 【開会】

【事務局】 本日は29名の傍聴を許可したので報告する。それでは第6回大野市小中学校再編計画検討委員会を開会する。

——<大野市教育理念の唱和>——

## 【開会あいさつ】

【委員長】 いよいよ大詰めになってきた。今まで論議してきた論点を全て洗い出し、内容を確認し、次回には報告書の原案ができるところまで持っていきたいと思う。協力をお願いしたい。

## 【議事】

【委員長】 資料 No.1 論点整理について、事前に確認させていただいた。今まであまり発言はしていないが、論点整理の中で気づいた点については付け加えをさせていただきたいと思う。

論点整理の内容について事務局の報告をお願いします。

——<学校数について事務局報告>——

【委員長】 資料の●について説明させていただく。まず、学校数の話しを聞いたときに、中学校の学校数で1番意見が多かったのが2校だったと思う。その場合でも、大野は原則小中学校全部合わせて1校だという考えを持つことが重要だと思っている。今後、子どもたちの減少が進み、様々な授業形態等が出てくるかもしれない。その時に、例えば、遠隔の授業をしようと思ったときに、各学校の時間割がばらばらで時間帯がずれていたりすると、合同の授業をリモートで行うなんてことはできない。なので、全部が行ったり来たりできるような時間割を作っていく。あるいは、授業を開こうというときには、学校の壁を越えて同じ学年の子どもたちが授業を受けることができる。あるいは、カリキュラムマネジメントやクロスカリキュラムということが実行できる体制を作っていく。大野が大切にしているふるさと学習を各学校がばらばらにやるのではなく、例えば、発表会は一緒になってリモートを使ってやっていく。途中経過等についても、自分の学校で取り組んでいるふるさと学習をそれぞれの学校が紹介あっていく。そんなことができると良いと思う。

今後、小学校の教科担任制が導入される。教科を超えてお互いに配慮していくことをしようと思ったときに、先生がそれぞれの学校の所属である以前に大野の教師として、大野全体で大野全体の子どもたちのことを考えられる体制を組めるようなことを考えてほしいと思う。統廃合の問題とは全く違った次元の

ことかもしれないが、大野は1つの学校だという意識で全ての人達が取り組むことが必要だと思う。

続けて事務局の報告をお願いします。

——<再編時期、再編方法、学校の教育内容と地域を支える機能について、事務局報告>——

**【委員長】**学校の教育内容と地域を支える機能について補足をする。今コロナ禍で、ここ1、2年の間でGIGAスクール構想が実現し、子どもたちに一人一台タブレットが手元に届く時代になろうとしている。これは単にタブレットの話ではなく、教育の方法や内容を含めて、大きな変動がこれから学校に起きてくるということでもある。タブレットだけ手元に来れば新しい教育ができるということでもない。タブレットがあってもそれと連動する電子黒板が整備されているのか、それを使って宿題のやり取りや保護者との連絡等もやり取りできる仕組みになっているのか、働き方改革に結びつくような形になっているのか、教師の研修についても負担がかからないような形になっているのか。GIGAスクール構想1つ取り上げても学校の在り方が大きく変わっていくことになる。

これは学校再編問題にも大きく関わってくる。例えば、教室の一つの壁が大きなモニターだったら、他の学校と朝の会を一緒にできるかもしれない。かなりいろいろな可能性が出てくる。ところが、タブレットは4、5年経てば寿命が来る。この4、5年の間にタブレットを役立てる形で使っていかなければ、次はタブレットがなくてもいいとなるかもしれない。次回の整備の時には国の補助はないと思う。この4、5年の間に本当に役に立つものにして、次も欲しいということになるか、そこから離れていくか。短い間で判断しないといけないことが学校やタブレットを使っての教育に求められてくる。

大きな変化が起きてくる。教師の役割も変わってくる。学習を考えたときに、教えて覚えることに関しては、それが教師の仕事ではなくなるかもしれない。覚える学習活動に関してはAIを使ったプログラミングがかなり進んでいる。子どもたち一人一人に合った形でプログラムが組み立てられていくことが実現しつつある。教える、覚える教育に関しては教師の仕事でなくなる可能性もかなりある。教育の中身そのものが大きく変わってくる。それに対応するようなことをしていけないといけない。そのためにも大野が一つになって取り組んでいくことが重要になってくると思う。まさに進取の気象が問われていると思う。大野全体で教育を考えていくことの上に、学校再編問題を考えていっていただきたい。

学校のことだけではなく、リモートに関しては、大野のような地区であるからこそ真剣に取り組む、他の地区から人が来れるような働き方ができるようなモデルになっていくという気概が必要だと思う。その中で、ふるさと教育に関しても地域の行事や伝統を継承していくといった意味だけではなく、大野の明日の市民を育てる、ふるさと学習にしてほしい。学校再編問題等についても中

学校の子どもたちが真剣に論議をし、この委員会や教育長に提言するぐらい、自分たちの問題を自分たちで考えることができる子どもたちに育っていくようなふるさと学習にしてほしいと思う。

地域の核に学校や公民館がなっていかにざるを得ない。それぞれがばらばらに機能するのではなく、地区を支える公的機関として公民館や学校、保育が連結した形の新しい地域の中核を作り出していくことについても並行して考えていく必要があると感じた。

今日は今まで論議していただいた内容を少し省いている部分もあるかもしれない。いろんな立場のものを並列して出しているので、気づいた点等あれば意見をいただき、それぞれの論点で中心になるものを1つ選んでいくことができると良いと思う。各委員の意見をお願いしたい。

**【委員】** 大野市小中1校体制を進めていくとなると、学校数はどうなるかわからないが、それであっても専門教科の配置は改善できるシステムなのか。

**【委員長】** 先生の数は学級数等で決まっているので、全て配置できる可能性はないと思うが、大野市の中で一番数の少ない技術の先生が一人もいないということはないと思う。その先生の力を他の中学校でも活かせるように、授業を配信するなどの仕組みを作る体制で、カバーできるものはカバーしていくことが必要だと思う。

**【委員】** それで改善できるのであればすごく良いと思うが、簡単にはいかないのか。

**【委員長】** やはり生の授業が一番良いが、それは難しいので、大野の中にいる各教科の中心となる先生が、各学校と連絡を取り合いながらやっていく仕組みが必要になってくると思う。

**【委員】** 具体的に再編のことを考えると、総論は賛成だが、各論にいった時にいろんな意見が出たり反対が出たり、各論は学校の数と場所かと思う。そこで論点整理の1 学校数について、中学校は当分の間2校で進んでいくのが良いのではないかと思う。1校にした場合、校舎を新築となるが、ほどなくして学級数が減っていき、空き教室ができるというもったいないこともあるので、当分2校でいく。10年後にと一番上に書いてあるが、10年後にこのような会議の場を持つのは遅いかと思う。5年後に5年後を考えるような場を持つということを含みながら、当分の間中学校は2校で行くというのが良いのではないかと思う。そうなれば、教室の数から既存の校舎を使うとなれば、開成中学校と陽明中学校の校舎を使って2校にする。校区割については、同じような大きさになるように考えてはどうかと思う。

小学校については複式を解消することと、歩いて通学するというのが現実なので、通学時間や距離を考えると、和泉地区には小学校を残し、盆地の中に小学校4校。小学校5校、中学校2校の中で委員長から補足の合った小中1校体制を推進していけばいいのではないかと思う。複式を解消するとすると、現在

複式になっている阪谷小学校と小山小学校の複式を解消できるように考えていけないといけないので、今の中学校の校区で4校となるように小学校は再編を目指すというののかなと思う。場所と数を具体的に述べた方が賛成・反対が出やすいと思う。

【委員長】 学校数の中学校のところから論議が始まったので、それに関わる意見があったらお願いします。

【委員】 当初から申し上げているように、教科担任制である中学校は、教科担当がいけないという状態は解消したい。先ほど話が出たようなリモートで一緒に1つの授業を受けるという方法が実現すればいいが、それも1つの手段として取っておいて、全ての教科の教科担任を配置できる数は1学年4学級必要であるということ、今現行の校舎をそのまま利用できるということを見ると、中学校は2校に再編するというのが妥当だと思う。

小学校については、複式を解消することを念頭に置いて、通学距離等を勘案して着地点が見つかると思う。今現在の中学校区は、有終東小学校と有終西小学校は、小学校区の途中に中学校区の線が引かれていて、中学校に進学する際に2つに割れる。この機会にこれを解消できないかと思う。これを解消できると、より小中の連携は進められると思う。長い歴史があるので、机上の線引きを変えるだけでできる話ではないので、市民の理解を得るために努力は必要だが、小中の連携を進めるという目的がはっきりしているので、そのようなことができないかなと考える。

委員長から話があった小中1校体制ということは、大野市の教育として1つの方向を目指すという意味では重要な視点だと思うが、日常的に毎日全ての学校教育活動の時間割をあわせて一緒にできるかというところと難しい。先ほど例に出た、専門教科の教員が少ない教科については時間割をそろえてリモートでもできるようにするといいがそんなに簡単な話ではないと思う。特に技術や美術、音楽の教員が少ないが、そのような教科ほどリモートになじまないと思う。リモートを否定するつもりはないが、使いようをもっと研究していく必要があると思う。大野市は1つだという考えは持っておかないと、使いようを考えるとどこまで行きつかないようになってしまうので、大野市は1つだという考え方は共有した上でどのようなところから始められるかを検討することは価値のあることだと思う。

【委員長】 中学校の話に加えて、小学校の話が出てきた。論点整理では小学校について3つ、①複式の解消、②少人数学校のメリットを生かした教育を進める方がよい、③再編の基準を設けてはどうか、が上がっているが、もう1つ有終東小学校と有終西小学校はこの機会に学校区の再編を検討することを入れるべきではないかとの意見があった。

理念として大野市小中1校体制は良いと思うが、現実的には様々な問題があるとの話だった。様々な問題については当然の話だと思う。実際リモートで合

唱をすると時間差があり、合唱にならない。体育をリモートでどのようにやるのかという話も出てくるかもしれない。一方で、ダヴィンチの様な遠隔地で手術操作ができるようなものが既にある。そのようなものを使えば技術や家庭の授業の中身に関しても遠隔地でやれるものも出てくる。技術の進歩に関しては線を引く必要がなく、同時に先生の能力も問題となる。それだけのことをやるだけの力があるかどうか、1校体制をやるといったところですぐに動くことは無いが、それに向かって体制を整えていくことが重要だと思う。

小学校の有終西小学校と有終東小学校については、小中の連携を考えていくことをこの機会にやるべきだとの話が出たが、これについての意見はどうか。

**【委員】** 今ほど意見が出たように中学校2校、小学校は旧大野市に4校、和泉小学校は存続という案に賛成する。

中学校を1校にするというのは、大野市の第6次総合計画や人口減少対策として、若い世代を都会からの移住に力を入れていこうという時に、近くに学校がないというのは大きなマイナスポイントになると思う。大野市に移住を考えている人は、スローライフや農業、林業を考えていて、町中より村部への移住が多くなると考える。近くに学校がないというのは子どもを育てる年代にとっては、仕事と同等の大きな問題であると考えている。中学校は、今ある施設を使うことに越したことは無いと思うが、もし学校を新しくするのであれば、町中に学校を建てる必要は無いと思う。財源を心配するのであれば、上庄や尚徳の土地の安いところで、自然が多く静かな環境に学校を建てた方が地域の方の理解も得やすく、子どもたちの学習環境もよくなるのではないかと思う。

先日、丸岡南中学校を視察したが、福井県初の教科センター方式の中学校は今までの中学校の概念を吹き飛ばすぐらいの素晴らしい施設で、大野市の子どもたちもこのような環境で学校生活を送らせてあげたいと思った。場所も田んぼの中に建っていて、町中ではなかった。

小学校4校については、今の中学校の区割りで4校分けるのが良いと思うが、校区の見直しをお願いしたいと思う。例えば、上庄地区は小山地区と篠座保育園があるところまで、東中を上庄区域とする。富田小学校は真名川の川向こう全てを尚徳地区として、有終南小学校と下庄小学校を残し、有終西小学校と有終東小学校は、有終南小学校と下庄小学校に分けるような校区設定を考えてもらえれば、各学校の人数もバランスが取れて、学校存続の期間が延びるのではないかと思う。

**【委員長】** 有終東小学校と有終西小学校だけでなく、4校全体の校区の見直しを含めて検討する方がいいという意見でよろしいか。

**【委員】** はい。

**【委員長】** 小中の連携を前提として、小学校の校区の見直しを新たに視点として入れるべきではないかとの話が出ている。これについて反対の方はいないか。

——<反対なし>——



【委員長】学校数とは別に、校区の見直しについて盛り込む方向で行きたいと思う。他に意見があればお願いします。

【委員】校区の見直しに賛成で、小学校の校区に合わせて中学校も校区を引き直してほしいと思う。小学校の4校も、最低4校だと思う。

タブレットの活用について、タブレットを使えば自分たちでは想像できないような授業ができると思う。人間がどんどん勉強していかないとタブレットの時代についていけないと思う。

先日、阪谷小学校と小山小学校をオンラインで結んで授業をしているとの記事を見た。実際タブレットを使った授業をして手ごたえはあったのか。教育委員会として、タブレットやオンライン授業に対してどのような考えを持っているのかお聞きしたい。

【事務局】阪谷小学校と小山小学校のタブレットを使った合同授業について、例えば、阪谷小学校のA教諭が中心となって授業を進める。委員長から話があったように1人の教員が学校全体を見るといったような考え方と同じで、そのような授業をしていた。人数が少ないので合同で授業をすることによって多様な考え方に触れることができ、タブレットを使っているのも、事前に子どもたちがそれぞれ持っている考えについて、お互いに意見を言い合っている。それを基に授業の中で意見交換し、子どもたちも生き活きと学習に取り組んでいる。

別の方法としては、複式学級なので、6年生は6年生の授業、5年生は5年生の授業という形で1人の教員が2つの授業を見ているが、合同で授業することで2人の教員がいることになるので、6年生の授業をA小学校の教員が、5年生の授業をB小学校の教員がやるということで、一体化することにより1学年に1人ずつ教員がつくこともリモートでやることで可能になるという話も聞いている。委員長が言うように複式学級であっても改善されるべきところではある。ところが、教育委員会の考え方として複式学級を解消するといった1つの観点としては、さきほど話があったが、体育の授業などリモートで解消できない部分がある。導入されるタブレットを大いに活用しながら現在は教育の質を高めていこうとしている。

【委員】教育委員会の手応えとしてはオンラインなどのタブレットを使った授業は成功するとの判断なのか。

【事務局】委員長が言われたように一人一台タブレットの時代が来た時に、複式学級だけではなく、共同しながら授業をするなどの部分でもタブレットの使い方が生きてくる。昨年度、各小学校に1学級分のタブレットを整備した。小規模校はそれを有効に活用できるが、大規模校では学級数が多く、活用が十分できていない。小規模校での活用を今後活かしていきたいと考えている。

【委員長】他はいかがか。

【委員】今の話を聞いていると、委員長から話があった大野市小中1校体制はすごく魅力的だと感じている。和泉小学校に関してはリモートを活用することで、

体育や音楽は難しいが、普通の授業に関しては和泉地区に小学校を残したままでも、今よりは改善できるのではないかと感じた。高学年になった時や、体育などの専門的なことについては考えないといけないと思うが、今の話を聞いていて、教育委員会が手ごたえがあると感じているのであれば、和泉小学校に関して、低学年は現状を維持するような形でしばらくは残しておいて、もう一度再編の可能性があるのであればその時に考えるのも1つの案かと思う。

【委員長】和泉小中学校に関して、小学校は残した方がいいとの意見だった。

再編時期や再編方法について意見があればお願いします。

【委員】再編時期について、今回この会議が設けられることになったのも、小学校2校、中学校1校の話が急に出てきて、市長選の争点になるぐらい大野市民に受け入れられなかったのがこの会議の発端だと思う。急に令和5年に中学校を再編すると言われても、実際に再編に係る人たちは驚いたと思う。もう少し準備期間が欲しかったと思う。説明会では、賛成意見も反対意見もあった。再編するにしても段階的にするのであれば、ある程度のプランをもって説明していく必要があると思う。複式学級の話やICTの発達で勉強面ではクリアできることも増えてくるとは思うが、教員の数が減りスキルアップできなくなるといったことも出てくると思うので、ある程度方向性を説明していく必要があると考える。中学校の令和5年という指標があったが、2校にするのが令和5年なのか、人数が減っていき2校ですら維持できなくなるという話を先んじてしておいて、説明していく必要があると思う。そのために教育委員会はもう一度、各団体に説明に行ってもらった必要があると思う。再編の時期に関する意見を聞きながら、案を出していければと思う。校区再編については、しっかり説明して恩恵があると納得してもらえれば近いうちに出来ることではないかと思う。

【委員長】再編の見通しをはっきりと示した方が良いのではないかとこの意見だった。時期の問題や時期ごとにどのような内容にしていくのかに関して、現在2段階方式と言っているが、2段階方式も含めてもう少しはっきりとさせていくべきではないかとこの意見だった。

時期のことに関して他に意見があればお願いします。

【委員】今いる人口が減るのは間違いないと思うが、どのように減っていくかは想像できないと思うので、以前意見があったように基準を設けた方が良いと思う。1段階目の再編をして、2段階目の再編に関しては時期よりも人数等の基準を基に再編する方が考えやすいのかと思う。

【委員長】2段階方式にするのに時期を示すのは難しいかもしれないが、内容について基準にあたるものを明らかにしておくべきではないかとこの意見だった。

【委員】時期の話だが、このコロナの現状を考えると、国も県も市も予算的に困窮してくる時期に入るのだろうと思うので、2段階はやむを得ないと思う。現計画の2023年（令和5年）、2026年（令和8年）の話は無理だろうと思う。しかし、目標年次はある程度決めておかないと市にしても予算計画を立て

るのに困るので、それを見越して再編計画を立て、理解を得ていかないといけないのではないかと思う。

【委員長】内容だけ決めるわけにもいかないだろう。ざっくりでも今後のことを考えると目標の時期を念頭に置いておくことも踏まえて考えていかないといけないという意見だった。

時期については、中々はっきりと言えるものではないと思うので、10年を1つの単位として考えれば、10年という単位とその半分の5年をおおよその目途にしながら見直しをしていく。見直しの基準等についても、もう少し細かなところまで踏み込んだ形で入れ込んで、まとめてはどうか。

【委員】5年見直し、10年見直しもいいと思うが、今中学校を1校にしてしまうと5年後に見直しと言ってもどうしようもないのではないか。

【委員長】2段階方式の話が出てきた段階で、とりあえず中学校2校に再編することでスタートする、ということで多くの委員が合意をしていると思っている。

【委員】いろんな事情があり时期的なことは考慮しないといけないと思うが、一番考えないといけないことは、児童にとって勉学は機会均等。それぞれが同じ環境で勉学をできる機会を作ってあげることが、本来の教育委員会の仕事だと思う。5年後、10年後はそれでいいが、できるだけ早く解消してあげられるよう考えなければいけない。子どもたちがどう勉強できるかを中心に考えなければいけないと思う。

【委員長】可能な限り早い条件の中で、子どもたちの学ぶ権利を保障していく条件は作っていくべきではないかとの話だった。

論点整理の中でナンバリングをして、異なった意見がいくつか並行して書いてある。今までの議論を踏まえていくとそれぞれナンバリングしたものが同等というよりも、あるものを選べばあるものが落ち、それに関連して次のところでもあるものを選ばれるような形にならざるを得ないと思う。ここで1つ1つ確認をしていく作業も必要かもしれないが、今までの論議を通して見ると学校数や時期については自ずと意見が決まってくるように思う。大きな変更点等がなければ、この中からいくつか選んだ原案を次回までに教育委員会で作成していただこうと思う。

今日新たに付け加わったのは、小学校の校区の見直しについて合意を得られたので新たに盛り込んでいきたいと思う。

気づいてないような点が他にあったら出していただき、次回、それも含めて原案として提案させていただきたいと思う。

【委員】当分の間の中学校2校案は、校区を見直した上で2つに分けるのか。以前教育委員会から説明があったように、開成と陽明の今の校区のまま2つに分けるのか。今の校区のままだと和泉中学校はどうするのか。自分の認識では開成と陽明の2校に分けると思ったが、認識を統一して出さないといけないと思う。

【委員長】小学校については今日初めて校区の見直しの話が出てきた。中学校に関しては、今まで教育委員会が提案した原案の中に和泉中学校を統合した場合には、どちらの学校と統合するか案が出ていたかと思う。

【事務局】中学校2校のパターンとしては、開成中学校と上庄中学校で1校、陽明中学校と尚徳中学校と和泉中学校で1校、のパターンで示している。

【委員】尚徳中学校と陽明中学校と和泉中学校で1つ、上庄中学校と開成中学校で1つになる案だと生徒数にバランスが取れないかもしれないので、以前提案があった、そこでも校区を見直してみてもどうかと思う。どちらの中学校に行くか選択できる地区もあってもいいのかなとも思う。東西に分けると校舎の位置が合わないので大野市を南北に分けてはどうかと思う。

時期については、2023年（令和5年）に中部縦貫自動車道の大野—和泉間が開通する予定だと思うが、それが開通しないと和泉地区の中学生は通学が大変なので、2023年（令和5年）を1つの目標にしてはどうかと思う。2021年（令和3年）の4月から40箇所説明に回り、2022年度（令和4年）は準備になると思う。中部縦貫自動車道が2023年（令和5年）4月から開通するか分からないので、1年遅らせて2024年（令和6年）に再編でもいいのかなと思う。その2年間かけて準備や確認をすればいいと思う。今度の4月から3年後を具体的に申し上げたい。小学校もそれに合わせていけばいいと思う。

【委員長】当分の間中学校2校といった場合に、和泉地区の問題があるので、中部縦貫自動車道の整備に合わせた形で2校案がスタートするといった意見だった。それまでの間準備を進めていく。小学校の校区の再編に関してもその間に並行して検討してくという意見が出た。

【委員】今まで中学校2校に和泉中学校も含まれてしまうと思っていたが、前回の会議で紹介があった、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」中間まとめP66の8.（2）②に、中山間地域などで義務教育9年間を見通した教育課程編成を可能とする学校の裁量拡大を検討するなど、小中一貫教育を推進していくことが必要である、との記載があった。国としてもこのようなことが必要であると考えているのであれば、令和5年度になるか分からないが、その時の中学校2校には和泉中学校を含めず、とりあえず小中一貫校を取り入れながらチャレンジしてみて、数年後再編を見直す時に、和泉のことを考えてもいいのではないかと思う。

【委員長】当分の間中学校2校の場合の和泉の扱いについて、中部縦貫自動車道の整備に合わせて2校のスタートが決まるという話があった。一方で、小中一貫校の取組み等について更に進めて、2段階目の再編に合わせて、和泉中が2校案に入るかどうかを決めてもいいのではないかとの話がでた。

【委員】2段階目の再編見直し時期に、和泉小中一貫校が成功していればそのまま残す選択もあると思う。

【委員】中学校の教科担任にこだわっている。1学年4学級必要だというのは、実際に教職員定数法などに照らしてシミュレーションしてみたところ、4学級ないと定数では教科担任制を完全に行うのには難しい。なので中学校は1学年4学級が必要であり実現させる。その1段階目の時期は中部縦貫自動車道の整備の状況や、地域の理解を得ること等で数年は変わるかもしれないが、まずそこを取り掛かる。2校になった後に、2校に人数の差が出て、片方は3学級の学年が出るということがないように、校区の線引きを変えるなり、小学校で中学校区を決めるなどこの際にできるといいなと考えている。

先ほど、再編の時期の話で2段階目の再編の基準を設けてはどうかとの話が出たが、私がこだわっている免許外を中学校で無くすようにするためにはということを見ると、第3回会議の資料 No. 2-1を見ると、令和13年度には間違いなくどちらかの学校に3学級が生じる。中学校1年生が大野市中で185人しかいなくなる。これは既に生まれている子どもなので間違いのない数字。次の令和14年には中学校1年生が157人になる。中学校が1学年4学級を維持できなくなる時が1つの目安ではないかと思う。その時の小学生はまだ生まれていないが、中学校がそういう状態であれば、小学校も手を付けないといけな時期だと思う。中学校のことを基準にして、小学校の再編時期のことを言うのは変かもしれないが、中学校が1学年4学級を維持できなくなる時が2段階目の再編の大きなターニングポイントになると考える。

【委員長】基準を設けることについては賛成をしていただけたらと思うが、基準の中に、小中一貫校が上手くいけば、それはそれで基準として残すべきだとするか、中学校の教科担任制の維持を考えると、1学年4学級と小学校も含めて見直しをしていくという違いになるかと思う。

それによって和泉の扱いの仕方が変わってくるかと思う。

【委員】教科担任を揃えるためには1学年4学級必要とのことだが、10年後も4学級必要だと100パーセント言えるのか。

【委員】それは分からない。

【委員】分からないのであればそれは変わってるかもしれないので、今の基準で考えなくていいと思う。

【委員】いつというのではなく、免許教員の数が揃わない時期を目安にしてはどうかという意見。それが今の数字と今の法律では、令和13年には免許教員の数が揃わなくなってくるだろうということ。法律を変えるという話までは分からない。

【委員】先生として働く立場からすれば教科担任はすごく大切だというのが伝わってくるが、保護者の立場からすると専門の先生に教えてもらうより、学校に楽しく行ってほしい、間違いなく行ってほしいという気持ちの方が強い。教科担任を揃えるということが一番の基準になるよりは、学校に楽しく、間違いなく通ってほしい。学校に行かないと授業が始まらない。コロナで学校が休校に

なってオンラインとなった時に、教科担任はそこまで重要視されないと思う。実際、自分たちも専門の先生に習ってきたかも分からない。価値観は人それぞれ違うので難しいが。

【委員】教科担任制の維持は教える側の理屈ではなく、習う側の理屈。誰が教えるかではなく、誰から習うかという話。自分も中学校の時に9教科全て専門の先生から教えてもらったか分からない。それは、教員が自分は専門外だと言って授業をすることは無いから。

教える側の理屈になるが、教員の日々の努力で積み上げてきたものがあるが、専門の教育は受けていない。専門の教育を受けていない教員から習っている子どもたちがいるということは現実間違いなくある。そこを解消したいと考えている。

【委員】教員の数は学級数が基準になり教員が配置される。学級数の基準は中学校の場合、福井県は1学級32人までとなり、1学年33人となると2学級になり、64人までは2学級で、65人になると3学級になる。これは文部科学省が定める基準より緩い。教員の数も増え、目が行き届くのでありがたいことだが、それがいつまで続くか分からないと思う。文部科学省の基準も今後変わるかもしれないし、学級数に対する教員の数も変わるかもしれない。学校を取り巻く状況もこれから変化する可能性は高いと考えられる。大野市の人口動態もどう変わるか分からない。

新しい提案になるが、何年後に再編とは言えないので、毎年少人数で年2回ほど、大野市の状況进行分析・判断をする会議をして、5年後には再編検討委員会の様な会議をしないといけないのではないかと考える。

【委員長】基準を作るにしても変動があり、国や県のいくつかの基準も出てくるので、数字だけで勝負するのは難しいだろう。毎年変動に合わせて状況を確認し、準備をしていく会議を開催し、5年後、10年後の案に向けての準備をしていくということを入れてはどうかという意見が出た。

【委員】評価して改善していくことは大切だと思う。定期的に会議を開催するのに賛成。

【委員長】このことに関しては一任させていただけないか。基準を設けることや、2段階再編のこと、間をどうつないで準備していくのかということについて、文面で書いてみないと納得できないことも出てくると思うので、まず文面にしてからもう一度議論していただきたいと思う。今出てきた案も含めてまとめて、次回原案を提案したいと思う。

【事務局】今ほどの議論の中で学校数について確認させていただきたい。

【委員】小学校に関しては校区の見直しによって人数が変わるので、学校数を今はまだ決められないのではないかと考えていた。和泉を別に、大野市内だけで校区の見直しがあった上で、小学校の数が決まるという印象を受けた。

【委員】和泉に小学校を残して、盆地は小学校4校。具体的には、阪谷小学校と

富田小学校で1校、上庄小学校で1校、有終西小学校、有終南小学校、有終東小学校、小山小学校、下庄小学校で2校と考えていて、それに賛成が多かったと考えている。

【委員長】和泉小学校を含めて小学校5校ということによろしいか。

——<発言無し>——

【委員】中学校は和泉中学校を含めて2校なのか。和泉中学校を含めて、5年後に見直しと言っていたが、今回の原案では中学校2校となるのか。

【事務局】委員の意見で、中学校2校という案が多いと考えていたが、和泉中学校を再編の対象としないという意見が大半を占めるのであれば、そのような案を作らせていただきたいと思うので、議論をお願いしたい。

【委員長】もう一度提案があるようであればお願いしたい。

【委員】和泉中学校は5年後の見直しになるのかと思ったが、他の委員の意見がそうではなくて、1段階目の再編で和泉中学校が統合されるという意見で統一されているのであればそれでいい。

【委員長】小中の連携等を全ての学校で検討していく中で、和泉についても小中の連携を進めていくことになるわけだから、それが上手くいくようであれば5年後であっても中学校は小中一貫校として残していくということもありではないかという意見か。

【委員】そうではなくて、次の見直しで和泉中学校は再編の対象となるということなのか。5年後にもう一度見直しとなるのか、見直しはないのか。

【委員長】小中一貫校が上手くいっても、5年後に見直しはないという案なのかどうか、ということか。

【委員】次の再編で中学校が2校になると、5年後に和泉中学校自体がない。教育委員会が作ろうとしている案は中学校2校なのか、中学校2校と和泉中学校1校の案なのか。

【事務局】教育委員会が作る案ということではないが、先ほどまでの意見で、もし中学校を2校とするのであれば、開成中学校、上庄中学校で1校、陽明中学校、尚徳中学校、和泉中学校で1校の計2校案になると考えている。

【委員長】2校にする場合にはその案だということ。

【委員】ここにいる委員15人がそのような認識であればいいが、自分はそのような認識ではなかったもので、他の委員はどちらなのか。

【委員長】小中の連携が上手くいった場合には、和泉に関してもそのまま残る可能性がある、という可能性を残しておくといいということか。

【委員】次の見直し、5年後の話ではなくて、今出てきた2校案では次に和泉中学校はなくなるということか。

【委員長】当分の間、中部縦貫自動車道の整備等があるので、その間中学校は残る。

【委員】段階的にいくと、次の何年後かの検討の時には、学校の1段階目の再編

は始まっているのか。5年後にその5年後を見直すとなった時に、学校はどこも統合していないということか。

【委員】今の疑問は、5年後という言葉が具体的に出てきて、中部縦貫自動車道の完成の時期とが近いのでそのような議論になっていると思う。自分の認識では、次の再編の到着点は大野市で中学校2校。それがいつなのかというと、和泉にとって都合がいい中部縦貫自動車道が整備される時。しかし、大野盆地の中の機運が盛り上がって2年、3年かけなくても市民が納得し、早く再編しようとなれば、和泉中学校を残して、盆地の中で先行して再編し、中学校2校ということも有りうると思う。中部縦貫自動車道が完成しないのに、盆地の中が2校になったので和泉中学校も再編しなさいとまでは言えないと思う。1段階目の再編の最終形は大野市内に中学校2校だと認識している。

【委員】「当分の間」が定まっていないので、終着点がどこにあって、そこから2校で進めるというのがないので、和泉中学校がそこに入っているか入っていないかとなるのだと思う。「当分の間」は5年後なのか、中部縦貫自動車道が完成するタイミングなのかを議論した方が良く思う。

【委員長】和泉の問題を、中部縦貫自動車道との関係で考えていたが、それとは別に、盆地の中の校区の見直しについても並行してやっていかなければいけないので、一定の期日なりを、中部縦貫自動車道の整備が整った段階でという表現ではなくて、その間に盆地の中の校区等の見直し等についても進めていくという文言を入れて、整理をしていくという方向でよろしいか。

【委員】まず提示すべきことは、再編時期も去ることながら、校区の変更がどのように変更になるのか、それがいつからなのかをはっきりしないと、保護者としてもどうしようもない。一番最初は校区の話が出てこないといけないと思う。大野市内の校区を最初に決めて、それから和泉がどうくつつくかを決めていった方が良く思う。

【委員長】和泉の話は切り離せると思うが、校区の話は難しく、子どもの数を念頭に校区を割っていいのかという問題がある。地区については歴史的な経過もある。人数だけでは割れないという話と、文化も考える、通学距離も考えるとなると、これは今までと同じぐらいの議論をしないと、現段階では決められないと思う。

【委員】校区が昔から変わらず今まで来たのは、変えようと思っても変えられなかったり、変えられない何かがあったと思う。それを次の委員会までにといてもすぐに決められないと思うので、検討していただいた方が良い案が出ると思うので、人数も去ることながら、課題があるのでよろしくお願ひしたい。

【事務局】校区については難しい問題だが、今、乾側小学校の先行再編ということで下庄小学校に再編されれば、今の乾側小学校校区が下庄小学校校区に変更するという形になる。校区が先ではなくて、校数を委員の皆さんで決めていただいて、校数を基に教育委員会事務局でどのような形がいいか、意見を参考に



しながら次回までに校数や再編のパターンを提案していきたいと思う。そうすれば必然的に校区も定まってきて、もう一つ大きな課題となっている有終西小学校と有終東小学校の課題も中学校の再編の状況により、校区を変えていくことになる。再編の校数や方法、組み合わせによって後で校区の変更も地域住民の方をお願いしていくことになると思う。

【委員長】校区の見直しについては原案の中に含めて、事務局から提案するのでそれを見てほしいという話だったと思う。

今までの論議を踏まえて、次回提案させていただきたいと思う。いろいろなことが出てくるので難しい話になってくるが、まずは文面で書いたものを見て、論議していただきたいと思う。

議事については、以上とする。

### 【その他】

【事務局】次回以降の会議日程について意見を聴取したところ、日中開催は難しいという方が大半だった。第7回目の会議は1月14日（木）午後7時から開催する。第8回目の会議は2月18日（木）午後7時から開催とする。

【事務局】以上で本日の日程を終了する。

### 【閉会】

——<副委員長あいさつ>——

【副委員長】前回の終わりにはまとまっていくのかなという思いを持たれた方もいると思うが、本日、意見をまとめてもらえたおかげで少しずつ原案作成に向けて寄り添って行けた。校数についても再編時期についても難しい部分はあるが、最善と思える方法で1段階目、2段階目の再編を検討していただけたらと思う。次回は今日出た意見が文面で出てくる。口頭での話し合いでは心に落ちない部分もあるかと思うが、委員会の責任としてまとめていきたい。次回も意見をまとめてきていただき、前に進めるようお願いしたい。